

私にとっての大事件

松井 櫻子

2023年6月のある日、私にとって忘れられない大事件が起きた。

「痛い、痛い！」

私は真っ暗な部屋の中、とてつもない痛みで目が覚めた。

「お母さん、耳の下が痛い。」

そう言っ、て私は泣きながら、ねていたお母さんをゆらして起こした。

「どうしたの？」

「耳の下が痛い。」

お母さんが耳の下辺りをスマホのライトで照らした。そしてすぐに、

「大変・・・」

お母さんが急いでお父さんを起す。

「どうした？」

「さっちゃんの耳の下がすごくはれてる！」

私のことを見て、二人ともなんだかあわてている。お兄ちゃんがそばでねているから、

人で2階のしん室から1階のリビングにおりた。

「何これ! どうしよう!」

お母さんがあわてている。私は痛さで涙が止まらない。そして、とにかく早くこの痛さを何とかしてほしかつた。お母さんがいろいろと電話をしている。

「さっちゃん今から救急病院に行こう!」  
そう言われて、私はお母さんと救急病院に行くことになった。

夜中の病院はあまり混んでなかつたけど、持っている間、痛さで時間がすごく長く感じた。やっと自分の名前が呼ばれて、診察が始まった。熱を測ってもらったけど平熱。いろいろと診察してもらって、右耳の下が痛いこと、だんだんと左耳の下も痛くなってきたこと、口がほとんど開かないことを話した。お母さんが先生と何か話している。

「痛み止めを出しますね。明日の朝、必ず小児科を受診してください!」

先生がそう言っ  
て診察は終わ  
った。

診察が終わ  
って出  
してもら  
った痛み止  
めを飲んで車  
のシートに寝  
転がった。車  
が動き出  
してすぐに、  
眠たさで意  
識がなくな  
った。

翌日、私は  
どうしても  
学校に行き  
たかった。教  
育実習生のお  
別れ会をする  
ことになっ  
たからだ。私  
は実習生にあ  
りがとうの花  
束をわたす係  
に選ばれてい  
た。だけど、  
顔のはれと痛  
みがまだ強か  
ったし、昨日  
病院で、朝に  
なったら小児  
科に行っ  
てくださ  
いと言われ  
て

いたから、学  
校に行くこ  
とはできな  
かった。学  
校に行けな  
いこと、実  
習生にさよ  
ならが言  
えないこと、  
友達に会え  
ないこと、  
両耳が痛  
いこと、色  
々あって、  
涙が止ま  
らなかつ  
た。

昼前に、予  
約していた  
小児科へ行  
った。その  
時には両  
方の耳の下  
がパンパン  
にはれて  
いた。おじ  
いちゃんの  
先生が診  
察してく  
れて、  
「先生、お  
たふくで  
すか？」  
とお母さん  
が聞く。

「検査をし  
ないとは  
きりとは  
言えな  
いけど

その可能性が高いね。学校は5日間出席停止だから、月曜日の朝にもう一度来てね。痛いときはがまんしないで薬を飲むだよ。先生はそう言っただけだった。

帰る途中、大好きな学校を長い間休まないといけなの悲しくて、また涙が出てきた。

家に帰ってもお昼お飯を食べたい気持ちにはならなかった。口を開けると痛いし、ものをかむときも痛かったからだ。お母さんがお粥を作ってくれたけど、あまり食べられな

かった。夕飯も大好きなたけのご飯だったけど一口しか食べられなかった。

一日中寝転がっているだけだとすごくつまらない。テレビを観る元気もあまり出ない。お母さんもお家の仕事があるからずっと一緒にいてくれない。それが悲しかった。

何日か経つと少しずつ口が開けられるようになった。口が開けられるようになってきた。口が開けられるようになると少しずつ食欲が出てきた。だんだんごはんもたくさん食べられるようになって、日曜日

になったら、もういつも通りの元気が出ていた。お母さんが大好きなたけのこご飯を作ってくれた。お茶わん山もりのご飯を、もりもり食べた。家族と食べたたけのこご飯がとてもおいしくて、本当にうれしかった。

月曜日の朝、病院に行つて、もう学校に行つても大丈夫だよ。と先生に言われた。私は両手でガッツポーズをしてよろこんだ。

遅刻して行つた学校は少しドキドキした。次の授業は楽しみにしていたプールだったけど、水温が低くて入れなかった。残念だったけど、そんなことより、学校に行けたこと、友達に会えたことがうれしくて気にならなかった。ひさしぶりに行つた学校は何もかもが楽しかった。しかつた。

帰つてから、お母さんに学校であつたことをたくさん話した。

もうおたふくなんてこりごりだ。